



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン：ハーメネイー最高指導者のコム訪問

(23、24日付現地各紙)

10月23、24日付現地各紙は、ハーメネイー最高指導者の聖地コム（コム。イスラム諸学の学術都市）への9日間の訪問について報じた。

1. 概要

- 同最高指導者は、コムの聖職者たち（厳密にはイスラム法学を主とするイスラム諸学の学者たち。ウラマー）との会合において、彼らが政治、経済、教育、国家運営等について意見を述べることをしきりに勧めつつ、現体制とコム神学校との密接な関係を強調した。
- 同最高指導者は、バスィージ（バスィージュ。イラン革命防衛隊の動員部門でその傘下の民兵組織）との会合において、2009年の大統領選挙では多くの者たちが過ちを犯したのと同様に、バスィージは道を誤らなかったとする一方、バスィージによる過激な行動は慎むよう発言した。また、現在のイラン経済情勢と世界におけるイランの地位に関する敵の宣伝と、現実とは正反対であると説明した。
- この度の同最高指導者のコム訪問は、9日間という異例の長さである。今回の演説では、世間一般からの聖職者や現体制に対する批判に反論する一方、聖職者が一体となって現体制内でその役割を果たすよう呼びかけている。
- 同最高指導者は、バスィージとの会合において、2009年の大統領選挙当時の経済状況を批判していたムーサヴィー元首相や、家族関係に基づく行動を批判されがちなラフサンジャーニー公益評議会議長（元大統領）などについて、彼らの名前に触れることなく間接的な表現で批判する一方、アフマディーネジャード大統領のレバノン訪問を賞賛している。

2. コムの聖職者たちとの会合におけるハーメネイー最高指導者の発言（10月21日）

- (1) 「坊主の体制」であるとか「聖職者を体制側の坊主と非体制側の坊主に分類すること」は誤りである。「坊主の体制」とはイスラム共和体制に対する明確な侮辱であり嘘である。
- (2) イスラム共和体制の宗教的本質が故に、政治、経済、教育、国家運営等について意見を述べることは、イスラムのことを知り、イスラムに関する事項の専門家である聖職者の果たすべき役割である。
- (3) コム神学校は現体制の生みの親である。母親は自らの子どもに対して無関心ではいられず、必要な時にはその子どもを守らなければならない。
- (4) コム神学校における変革は不可欠である。

3. バスィージ関係者との会合におけるハーメネイー最高指導者の発言（10月24日）

- (1)（物事の本質を見抜く）知性、誠実さ、時宜を得た行動という3つの要素がバスィージの行動基準である。
- (2) 2009年の騒擾では、多くのものが過ちを犯し、多くはそれを是正したが、バスィージは知性の御旗を守りその道を誤らなかった。
- (3) 誠実さはバスィージの第二の行動規範である。誠実さとは神に基づく動機であり、個人やグループ、家族（関係）に基づく動機、友情からの遠慮に影響を受けるものではない。
- (4) 敵の計画の中での主たる方針は、ソフト・ウォーの枠組みの中で、国家をその現実とは反対に見せようとすることである。敵は、イラン・イスラム共和国の現実が変転しつつあるかのように見せようとして、特に経済状況に関して大量に宣伝を行っている。この宣伝では、イラン経済が憂慮すべきものであり、行き詰まりであるかのように見せようとしているが、現実とは正反対である。
- (5) 諸外国におけるイラン・イスラム共和国の名誉は減じていないだけでなくむしろ増加している。アフマディーネジャード大統領のレバノン訪問はそうした現実を示す一例である。同大統領のレバノン訪問とそこでの歓迎ぶりについては、過小評価すべきでない。